

## 令和元年度 第2回池田市総合教育会議 議事録

日 時：令和元年11月18日（金）午後3時30分～午後4時40分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：富田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員

＜事務局＞

16人

傍聴者：1人

### 1. 開会の挨拶

＜市長＞

- ・皆様、大変お忙しい中ご足労いただき、感謝申し上げます。総合教育会議にあたり、簡単ではあるがご挨拶申し上げます。前回は、私の教育に対する想いを述べ、共有させていただいた。現在、私が市長となって初の予算編成に取り組んでいるところ。教育関係予算に関しても、厳しい財政状況ではあるが、教育委員会と協議を重ね、池田の教育環境の更なる充実に向けて進めていきたい。限られた時間ではあるが、今後の池田の教育について、共通の認識を持った上で、有意義な議論をしたいと考えている。忌憚のない意見交換ができるようお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。

### 2. 議事

#### (1) 令和2年度教育予算の編成に向けて

＜事務局から説明＞

- ・本日の議題は令和2年度教育予算の編成に向けてということだが、平成28、29、30年度は、教育日本一事業を推進するために予算を手厚くしていただいた経緯がある。この教育日本一事業をより良い取組とするための点検として、お手元の資料にあるように、今年度の6月、7月、8月、9月に、検証会議委員の皆様とともに検証を行った。全21事業についての検証会議委員のご意見を、事務局で大きく3つの評価に分類し、ひとつずつ検証している。この検証会議の結果は、今後の展開のために必要なものや課題について整理するための評価としてご覧いただきたい。
- ・これまで、英語教育、幼児教育、ICT教育の3つを教育の柱とし、様々な事業を展開してきた。ほかに、教育に関する特色づくり、そして、いじめや不登校に関わる事業など、全21事業である。どの事業も、概ね、継続、拡充、一旦見直しを図って進めるべき、というご意見が多かったが、中には、指標を設定して点検すべき、というものもあった。
- ・様々なご意見が掲載されており、限られた時間内で資料の全てに目を通していただくのは難しい。市長や教育委員の皆様に取り上げていただき、必要に応じて事務局から補足説明をさせていただきます。忌憚のない意見交換をしていただき、本日の議題の参考とされたい。

＜市長＞

- ・事務局からの説明について、委員の皆様にも、今後の展望も含めてご意見を賜りたい。説明のあった事業の検証結果のみにとどまらず、自由な意見交換をしたいと考えているが、まずは、

現在の予算編成に向けての動きを説明させていただく。

- ・扶助費の増大に伴い、市民の生活や安心・安全に関わるようなものを手厚くしたいが、一部事業については、市民に、廃止させてほしい、とお願いをしながら、財源の組み換えを行っているところ。
- ・教育関係予算については、検証の対象としている平成28、29、30年度では、5,000万円、5,000万円、6,000万円と積み上げ式に拡充してきた。類似団体都市と比較すると、子どもの一人当たりの投資額に関しては、本市は上位に位置しており、今後も概ねこれを継続し、財政状況を見ながら、発展的に投資額を増やしていく方針ではある。
- ・しかし、令和2年度の予算編成に関しては、私も初めてということもあり、安易な投資は避けたいと考えており、現在の教育予算内での実施について、教育長に悩ましいお願いをしているところ。まず、5、6年生の35人学級だが、これは予算でいうと年間約4,000万円かかる。次に、クラブサポーター制度は、教員の負担軽減を行うことにより、子どもたちと向き合う時間をしっかりと確保することで、質の高い教育を行うためのものであるが、これは年間で約200万円かかる。これらを実現できるよう、教育長にお願いしているという状況である。事務局から説明のあった事業についても、継続すべきものは守りながら、組み換えができるものは組み換えをしたい。
- ・また、私の教育に関する考えについても、もう一度お話をさせていただきたい。前回の総合教育会議でお伝えしたとおり、私も教育には大きな思い入れがある。私が一番力を入れたいのは教育の中身だが、今の池田の教育環境を見ると、まず手を付けなければならないのは、環境整備である。例えば、体育館の空調整備などは前向きに考えていきたい。また、トイレの洋式化なども進めたい。このようなハード面の整備をコツコツと進めながら、社会の公益に資する教育の中身を充実させていきたい。このような優先度で考えていることを、皆様にご留意いただき、忌憚のないご意見やアドバイスをいただきたい。

#### <委員>

- ・まず、予算の関係では、小学校5、6年生の35人学級については、その財源の全額を、教育日本一事業予算から捻出するのは、難しいと思う。この予算の中には、例えば、複数年のリース料のように、令和2年度も必然的に必要となり、予算として組み換えられないものがある。検証会議の意見を踏まえ、修正、縮小、あるいは廃止という選択肢がある事業もあるので、そういうものは廃止したり、縮小したりする事で多少は予算削れるが、必要な4,000万円の全額をここから捻出できるかということ、やはり難しい。新市長として就任され、市長の想いもある事業であれば、少し予算を上乗せしていただいて、実現できれば一番良い形になるかと思う。
- ・環境整備に関しては、先に実施したいとお話だったが、これは比較的やりやすいと思う。単発のものであり、経常的に必要となる予算ではないので、余裕がある年度や、補助金が取れそうなときにやっつけてしまえばよい。いつでも対応できる体制を整えておき、補助金が付きそうだとときにパッと動く、ということで進めていけばよい。
- ・やはりこのような場で議論すべきなのは、今までやってきた教育日本一事業の、どれを継続してどれを縮小していくのか、ということではないかと思う。ご意見を見たところ、英語教育、ICT教育に関しては評価されている様子であり、継続あるいは拡充すべきと考えられ

ているので、これらは継続でよいかと思う。一部、あまり評価されていないという事業もあるので、そういう所については潔く廃止していくという判断も大事だと考えている。そうすることで、市長の仰っていた事業費の内の半分程度を削減で捻出し、もう半分を新たな予算で付けていただくのが現実的だと思う。

#### <委員>

- ・ 検証会議の位置付けについて確認したいのだが、これは、あくまでもアドバイザーボードであり、ここで決定するのではなく、事務局で判断をするための参考に意見を集めるという理解でよいか。

#### <事務局>

- ・ ご理解のとおり。

#### <委員>

- ・ 検証会議の資料の全体を見て、英語、ICT関係の評価が比較的高かったことは、ありがたい。社会的にも、このような能力を持つ人材が重要視されている中で、池田として取り組んでいた事業が外部の評価委員の方々にも高く評価されたことは、うまくいったのだと、喜んでいる。同時に、その検証をしてスクラップアンドビルドを進めていくことは非常に大事なことであり、縮小すべきものは縮小する、という判断もあつたほうがよい。その中で、必要な事業の重点化を進めることができれば、この事業評価をした意義もあることだろうと感じる。

#### <委員>

- ・ 市長の公約でもあつた、5、6年生の35人学級は、是非推進してもらいたい。体育館の空調設備については、防災の観点からも良いことであり、今後、地球温暖化が進む中、体育の授業にも活用できる。また、夏休みが短くなり、夏にも授業が行われるようになっており、体育館空調設備は、そういう意味でも役に立つと思う。この予算は教育日本一事業予算とは別ということであり、ランニングコストも大きいですが、教育の面からも助かると思うので、ご決断いただけたらありがたい。
- ・ 池田のはばたき塾は、池田特有のものであり、評価も高い。貧しい子どもたちにも平等に学ぶ機会が与えられることで、非常に評価しているところ。できることなら、塾に頼らず、学校教育だけで対応できれば、それが一番良いとは思いますが、英語教育も含め、内容を更に充実させ、安全面等も考慮し、是非進めていってもらいたい。
- ・ ICTについて、学校で使用するタブレットということだが、家庭学習でも使えるものを1人1台配布するのも、東京都のある区では実現しているとのことで、予算的には難しいと思うが、ありかと思う。
- ・ ほそごう学園で始まった運営協議会、この取組は池田市内の各学園に拡がるとよいと思う。

#### <市長>

- ・ コミュニティスクールに関しては、委員報酬を下げることで、全域的にできないかを検討し

ている。現在は35人学級の方を優先して検討しており、令和2年度の1年間は様子を見たいとは思っているが、非常に前向きに考えている状況。

#### <委員>

- ・委員報酬については、資料を見ると、なくても構わないという方もおられるので、辞退できるような方法を考えてもよいかと思う。報酬を下げるのも有効かと思うが、辞退してもよいという人が一定数いれば、現状の報酬額でよいということにもなる。

#### <委員>

- ・英語教育推進事業については評価いただいたとおりに思う。オンラインの英会話トレーニングについては、回数が大事で、話す相手に差があることも回数でカバーできることもある。
- ・35人学級については4年生で実施されており、これは4年生が大変重要な学年であることが理由であったが、やはり5、6年生も大事であり、意義のあることだと思うので、是非お願いしたい。
- ・教員の事務負担の軽減では、クラブサポーターなどを挙げられているが、必要なことだと思うので、こちらもお願いしたい。負担が減ると、先生方の労力も子どもたちに注げることになる。
- ・空調整備についても、今年の気温は去年よりましだったが、去年の温度はクラブ活動の時間がほとんど確保できないようなものだったと思うので、進めていただきたい。

#### <市長>

- ・先生方の事務負担軽減について、一番念頭に置いていたものは、事務サポーターの配置で、1校あたり約200万円。全小・中学校になると3,000万円程度かかり、35人学級と同時となると、令和2年度は厳しく、様子を見たいと考えているが、優先順位としては、次に来ているくらい高い。今後も財政状況を見ながら、前向きに考えていきたいので、またご報告させていただく。

#### <教育長>

- ・市長から教育への想いをお話いただき、非常にありがたいと思っている。予算については、平成28年度から、特にソフト面の推進ということで、毎年5,000万円ないし6,000万円の増額を得て4年目になり、令和元年度については、平成27年度と比較し、およそ2億2,000万円の上積みとなっている。
- ・市長のお話にもあったICT教育や英語教育の推進については、この特命予算の中でも柱に据えており、平成28年度以降推進にあたってきた。ほかに、幼児教育の充実、各学校教育の特色づくり、いじめ、不登校等の課題への対応などの分野で、この特命予算を活用してきたところ。
- ・35人学級編成の費用については、市長のお話のとおり、5、6年生への拡充について現在検討している。少人数学級編成については、平成16年度より、小学校1、2年生で始めた。国や府の措置の中、小学校3年生へと引き上げ、平成29年度からは特命予算を使って4年生まで引き上げてきたところ。

- ・また、昨年度、今年度と英語専科教員を配置している。これについては、昨年度も検討したが、委員からも、英語教育を推進するなら英語専科教育が必要であろうというご提案をいただき、現在小学校全校に専科教員を配置している。これは非常に特色ある取組である。
- ・特に小学校5、6年生においては、専門的な指導とそれを活かした教科担任制を重視してこれまで取り組んできたが、1年生から4年生までの少人数学級の成果を踏まえて、それを5、6年生に拡充するとなると、当然予算が必要となる。これまでの教育日本一事業を検証し、減額するものは減額をする中で、2,000万円から2,500万円程度の見直しまでできているのが現状。
- ・環境整備については、市長から、体育館の空調整備とトイレの洋式化というお話があった。トイレについては、約50%か60%程度の洋式化率。体育館の空調については、これまでも市長との定例会等で意見交換してきたが、防災と学校教育の2つの観点がある。近隣の状況を見ると、緊急防災・減災事業債を活用し、防災の視点からの整備をしていると記憶しているところ。学校教育における必要性について、今後検討していきたいと思っているが、これについても非常に大きな事業であり、財政状況も十分に鑑みていかなければならないと考えている。

#### <市長>

- ・皆様には、事業にメリハリをつけていくことにご尽力いただいている。皆様のご期待に応えられるような形で、教育環境を整えていきたいと思う。ご意見でもあったように、教育日本一事業のスクラップアンドビルドだけで財源創出ができるのかと言うと、なかなか難しいことも重々理解した上で、無理難題をあえて投げさせていただいている。また皆様と協議を続けていきたい。
- ・各学園のコミュニティスクール化や、先生方の事務負担軽減も前向きに考えており、それらは第2弾、第3弾という形で、適宜適切に行いたい。
- ・ICT環境を整えていくというのも非常に重要なことだと思っており、教育日本一をめざしているので、子供1人当たりの教育投資予算額はソフト面で1番になってもよいと思う。公益に資するものをめざしていきたい。
- ・他にも、議論できるような内容があれば、忌憚のない意見交換を、と思っているが、ここで、私が、今後の池田の教育の中身に関して、考え続けていることについてお話しさせていただく。35人学級やICT環境の構築など、具体的な教育環境の整備についての議論は、どのまちでも進められていることと思う。英語教育、幼児教育、ICT教育という3本柱についても、方向性として間違っておらず、素晴らしいことだと思うが、池田の教育で、今後力を入れなければならない部分は何かと、自分なりに考え続けている。そこで、今の見解だけを述べさせていただき、皆様のご意見もお聞きしたい。
- ・まず、今後の日本や社会の変化を考えると、2045年にシンギュラリティという分岐点があると言われている。一つ言えるのは、社会に、我々の想像と異なる大きな変化が起きるだろうということで、その中で、必要とされる人材や能力も大きく変化すると思われ、公教育の提供についても、その先を見据えて動かなければならない、と考えている。
- ・今後の英語教育という部分についても、池田の英語教育は高い水準にあり、注力してきたことが、結果に出ていると感じている。しかし、今でもポケトークのようなものがあり、将来

的に、コミュニケーションに関しては技術で補える時代になると思う。その時に重要なのは、英語を話せることだけではなく、国際社会や文化の理解であり、その方向に舵を切っていく必要があるのでは、と思っている。

- そして、新たな時代の社会には、デジタルと現実社会との融合の中に生きられる能力を持った人材を輩出しなくてはならない。ICT環境を構築し、教育現場のデジタル化を進め、プログラミング教育等に徹底的に注力する必要があると考えている。
- また、情操教育についても、議論が必要であると思う。今の日本の小学校における情操教育は、比較的良いと思う。情操教育は、いろんな感性、言葉にはできない様々なことが感じられる環境を与えてあげるものであり、今後も力を入れていく必要があるが、これだけではいけないと思っている。これからの社会では、誰もが同じことができるような人材を輩出するのではなく、一人ひとりが、どのようなフィールドでも、0から1を生み出したり、物事を形にする力であったり、社会に変革をもたらしたりすることができる人材をたくさん輩出していくことが重要だと思っている。そういう観点でも道徳教育が大事になってくると思う。道徳教育が正式科目化したがる、このままでよいのかという疑問がある。今の日本の道徳科目を見ても、情操教育の延長上にあるような状態かと思っている。小学校5年生、6年生、中学校1、2、3年生となると、考え方がとても重要になってくる。様々な考え方に触れる機会を、教育で提供することが大事だと考えている。しかしこうなると、価値判断や考え方の押し付けだとか、怖い側面もあるので、悩んでいるところ。情操教育を中学校まで延長するのではなく、物事の本質をより深く考えられる力を、一人ひとりが醸成していくためには、やはり哲学が重要になってくると思う。哲学とは本質を洞察することで、その問題を解き明かすための考え方を見出す営みである。例えば、小・中学校における哲学教育を一部で実施し、本質の考え方に各小・中学校の生徒たちが迫るなど、世界的に見ると、哲学的なものに触れるような環境があるということを知ったことがある。
- このように、将来的に、池田も教育の中身を整備していく中、国際理解教育とか、ICT環境で、シンギュラリティ後の社会に必要なになってくるのは、多様な個性を伸ばした人間を輩出し、物事を形にし、社会に実を下ろしていくことだと思っている。具体的施策に落とし込み、池田の小・中学校で施すようなことができればよいのではと思っている。ただ、今は考えている段階なので、ご指導ご指南いただきたい。将来的には、ここで議論しながら何か実現できればと思っているので、何でも自由なご意見をいただきたい。

#### <委員>

- ICTやプログラミングの教育の重要性は増しており、会社でもそのような人材がかなり上の立場まで行くような状況になってきており、必要だと思う。
- 国際理解教育については、機械が英語に取って代わるのでは、というお話だが、それ以前に、日本語が大事なのかなと思っている。学校では、国語として、文学とかいろいろなものを行っているが、道具としての日本語が非常に大事で、それでコミュニケーションが円滑にできる。英語は機械が取って代わるようになると、更に重要になるかと思う。
- 情操教育については、確かに踏み込みにくいテーマではあるが、個人的な考え方としては、最低限のことは教えてあげる必要がある。一定程度を教えて、その後は、個性や多様性があればよいと思う。

## <委員>

- ・まず、前半のお話だが、確かに社会がどう変わっていくかというのは非常に難しい問題で、我々も想像がつかない。例えば、私が個人的にショックを受けているのは、ビッグデータという考え方で、我々は昔から、AI等に興味を持って考えてきたが、膨大なデータを基に、違うことができるというビッグデータには、思いが至らなかった。15年程度で、根本的な、新たな概念が出てくると考えると、AIがどんどん進化していく中で、社会がどう変わっていくか、予想がつかない。例えば、エネルギーについても、温暖化がどんどん進み、世界的にどう対処していくかという議論になっているが、今の経済をベースにして何とかしようとするから話が行き詰まる。もしかしたら社会制度そのものを変えるようなことにより、エネルギーのほうが自然より大切だとなると、今までの社会制度を変えてでも、人類として生きていくような選択肢が出るかもしれないが、やはり予想は難しい。そういう意味では、未来を予測し、対応できるような教育ができていくかの問いかけは、現実的には非常に難しい課題であると感じる。
- ・英語についても、現状を言うと、英語圏の人々の英語によってディスカッションが進んでいくのを聞いていると、彼らはとても得だと思う。いつの時代に機械化され、スムーズな議論ができるようになるかというのはわからないが、当面はやはり英語は大切だと思う。同時に、先にお話があったとおり、国語と論理を結び付けた力をもっと重視すべきだと思う。国語からやるべきだという意見もあるが、これは教育委員会でも議論しており、大切だと思っている。プログラミングもそうだが、テクニックだけではなく、社会を生き抜く力を付けさせないといけない。同時に、社会が変化する中で、受容性のある子どもをどのように育てていくのか、このあたりについては、すぐに決められることではないが、今後も議論を続けていきたい。
- ・情操教育や道徳については、池田の先生方は前もって何年間かの勉強会を作られ、どう取り組むかというのを、かなり先行して検討されている。その勉強会の報告を聞くと、道徳の教科書に関しても、子どもたちの自由な考えや、答えを出すことの妨げになるようなものは採用しないなど、非常に感心している。このように、道徳教育については、池田の取組は世間よりも進んでいると思う。また、市長のお話にもあったように、人間として、社会人としての考え方がしっかりしていないと、今後の社会の中では生きていけないので、そこは大切にすべきだと思う。

## <委員>

- ・学校教育の中での情操教育という大変なところに市長は目をつけられたが、これは大切なことだと思う。学校教育というのは、子どもたちが一生を生き抜くため、自分に合った居場所を見つけていくのが一番大事なことだと思う。AI社会になってきて、最初に考えていた職業がAIに取って代わられる、ということが怖い世の中になってきている。そんな中、フレキシビリティというか、生き抜く強さ、どんな環境でも生きていけるような情操が必要。道徳の教科書等を見ると、大変良い話を書いてあり、それを読むだけでも確かに情操教育だが、自分の子どもの頃の思い出といえば、遠足や、何か嬉しかったことなど、そんなことが記憶に残っている。やはり、そういうことは心にいつまでも残る。私も、たった一言、先生に褒めてもらった事が救いになっている。先生方が子ども一人ひとりによく目を通し、あな

たはここがよいね、と褒めるその一言は、やはり少人数でないと難しく、これは子どもたちに自信を持たせる。友達との対話、授業における少人数グループでの話し合いなどでできた関係性が続き、自分の居場所の発見や、個性を伸ばす力というものにつながる体験を、学校教育で提供すべきかと思う。

- ・ A I 社会が進み、今は、紙の教科書を使っているが、将来的には、教科書も電子化し、学校へもタブレットを持っていくような時代が来るのかと思う。どんなに A I 社会が進んでも、人間には情緒がある。そんな中、市長が情操教育に目をつけられたことはすごいと思う。

#### <委員>

- ・ 考える力には、やはり母国語でものを考えることが大事だと思う。それによって、まずは日本で暮らしていくためにコミュニケーションがとれる。その上でそれを変換するため、さらに英語も良くなると思う。
- ・ 道徳に関しては、いろいろとお話があったが、相反するもの、全く違う答えを、お互いがどのように受け入れるかを考えるもの。例えば、教科書の中には、山中教授の細胞の研究や、ブラックジャックの話が載っていた。そこでは、人を助けることの中で、人の命は操作できないものだったが、それに反し、今の医学は最先端治療で助けていく、これらをどのように考えていくのかを、答えがない中、皆で話し合っていく。そのように、考える力をいかに付けていくのか、いろいろと模索されていると思う。
- ・ 意見としては、まずは国語教育が重要で、次のステップとして英語、多国語や、国際文化を学べるようにしていくことが大事かと思う。

#### <教育長>

- ・ 市長との議論の中で私が何度か言っていることは、子どもたちにいろんな体験をさせてあげたいということ。それは、人との交流、様々な環境、いろんな音楽、ペッパーを通じた最新技術との触れ合いなど、いろいろな体験をさせてあげたい。
- ・ 英語教育のことについては、教育関係者の会議などで、今年の全国学力学習状況調査がよく話題になっている。英語の科目で、正答率が非常に低かった問題があった。二つのピクトグラムがあり、どちらのピクトグラムが学校を表しているかを英語で説明せよ、というもので、一つは先生が教壇に立っていて、子どもがおり、黒板があるようなピクトグラム、もう一つは校舎があり、人がそこへ向かっていくようなピクトグラム。これらは、見ようによってはどちらも学校かと思えるが、どちらか、より学校らしいものを、自分で選んで英語で答える。これには、英語力も大事だが、まず、自分の考え方をしっかりと定めないといけない。こういった力を付けさせるために、自分の考えを実際に伝えるような、実践的なコミュニケーションの場を作っていきたいと思う。O S T や G T E C といった取組にも、そういう意味がある。
- ・ 道徳については、先に触れられたように、対話を重視し、いろんな考えに触れる、という授業の中で、大切なものが生まれる可能性があると思う。
- ・ 市長の未来への想いは、やはり、今の学校がこれでよいのか、という所にあるのかと思う。全国各地の様々な取組があるので、先進的なものを情報収集するが、今の枠組み、組織、システムの中で新しいこと行うことは難しい部分もあると思うので、システムや制度の思い切



った見直しが必要になるかもしれない。

#### <市長>

- ・皆様のご意見を聞き、自分の考え方の未熟さを感じた。いただいたご意見は持ち帰り、教育長にアドバイスをいただきながら、考えさせていただきたい。
- ・また総合教育会議では、このように回を重ねるごとに、何か本質に迫っていくような、そういうものやっけていきたいと思っているので、よろしくお願いします。

### (2) その他

#### <事務局からの説明>

- ・2020東京オリンピック・パラリンピック関連事業についてご説明する。オリンピックに伴い、聖火リレーが来年の3月26日に福島県をスタートする。大阪府は10番目であり、4月の14日から15日に実施される。池田市は14日に12名のランナーが通過する予定。順番としては、枚方の次が池田、そして箕面である。大阪府がランナーの公募を行ったところ、総数で8,401人の応募があり、池田市を希望された方は199人だった。現在、大阪府の実行委員会で審査が行われ、その後オリンピック・パラリンピック組織委員会においてコースも含め、12月頃に決定され公表されるという予定である。そのため、コースについてはまだハッキリとわからないが、ゴール地点においては、例えば、池田市吹奏楽団による演奏会を催すなど、盛り上げたいと考えている。また、コース上の警備については、各体育連盟等の団体にご協力を呼び掛ける予定。聖火リレーに関する予算は主には警備委託料であるが、12月議会において、補正予算として計上予定。
- ・ホストタウンに関する取組については、ご承知の通り、本市は、オリンピックはロシアの男子バレーボール、パラリンピックはフランスの車いすラグビーのホストタウンとして登録されている。具体的な日程については未定ではあるが、東京オリンピックは来年7月24日、パラリンピックは8月25日に開幕するので、本市において事前キャンプとして、10日から2週間程度、本番に向けての最終調整、時差解消等々が行われるが、この期間中に市民交流などが実施できるよう調整を進めている。先月、日本にて両種目ともワールドカップが行われ、両チームとも来日されたので、面談する機会を設け、直接のやり取りを行ったところ、とりわけフランスチームはフレンドリーであり、積極的に市民との交流を考えていただけるとのこと。
- ・円滑に事業を進めるために、市長を会長としたホストタウン事業推進委員会を設置し、本市ゆかりの前東京オリンピック女子バレーボール金メダリストの谷田絹子さんや、ミュンヘンオリンピック男子バレーボール金メダリストの大古誠司さんに名誉顧問をしていただき、委員には池田市体育連盟、池田市ママさんスポーツ連絡協議会などスポーツ団体をはじめ、ダイハツ工業株式会社、株式会社池田泉州銀行など市内の企業にも加わっていただいた。第1回は10月18日に開催し、12月中旬に第2回、2月の下旬から3月上旬には第3回の開催を予定しており、官民一体となって円滑に事業を推進していきたい。
- ・そのほか、今月の30日に、四条畷のイオンモールにて、大阪府主催のスポーツイベントがあり、本市出身でアテネオリンピックのバタフライ銅メダリストの中西悠子さんによる講演会や、ボッチャの体験会を通じ、本市のPRを行っていきたい。また、1月26日に五月山

体育館で、車いすラグビーを中心としたパラリンピックの競技種目を体験していただくパラスポーツフェスタを開催予定であり、これらの取組に関しては、広報いけだ1月号で特集記事を掲載する予定。

### 3. 閉会

<市長>

- ・皆様のご意見を賜りながら、質の高い教育環境を整えていきたいと考えているので、今後ともよろしくお願い申し上げます。これで令和元年度第2回池田市総合教育会議を閉会する。